

U.S. Indicators

マクロ経済指標レポート

米国 2005年入り後の雇用拡大ペース持続(7月16日までの週の失業保険申請件数)

発表日：05年7月21日(木)

~ 7月の非農業部門雇用者数は前月差 + 210千人増が見込まれる ~

(No. UI - 071)

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

(03-5221-5001 : seiji@dlri.dai-ichi-life.co.jp)

30.3 万件と市場予想を下回り前週から3.4万件減少

7月16日に終わった1週間の新規失業保険申請件数(季節調整済み)は、30.3万件と市場予想である32.5万件を下回り、前週の33.7万件から3.4万件減少した。トレンドを示す4週間移動平均をみると、31.8万件と前週の32.1万件から小幅減少し、昨年3月以降続いた34万件前後から低下している。このことから、非農業部門雇用者数は04年後半から今年1月にかけての前月差 + 160千人程度の推移から、同 + 200千人弱の拡大ペースにシフトしており、足下でも持続していると考えられる。

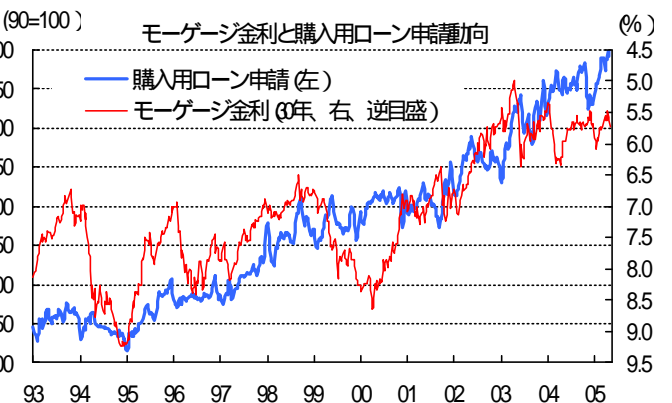
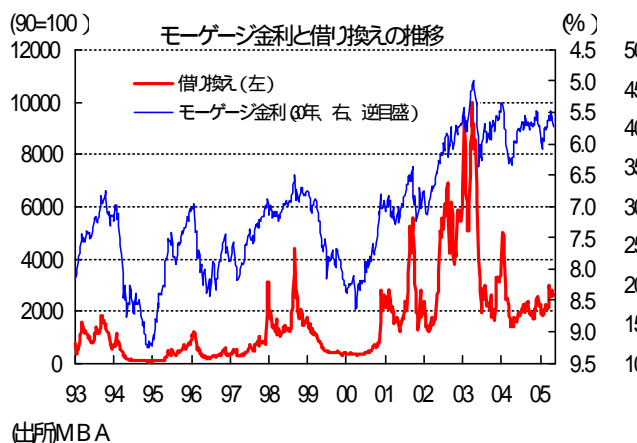
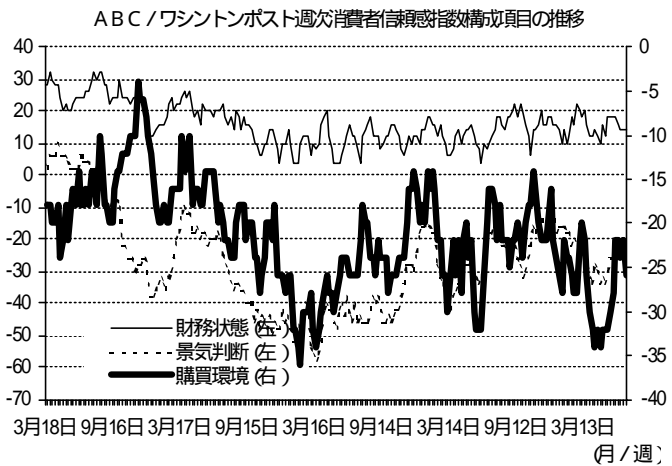
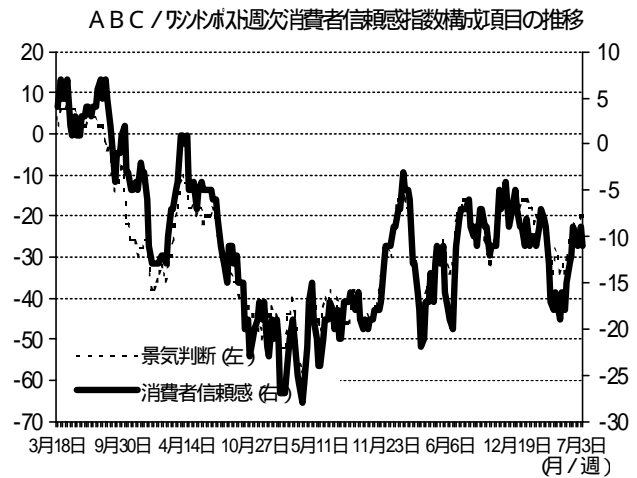
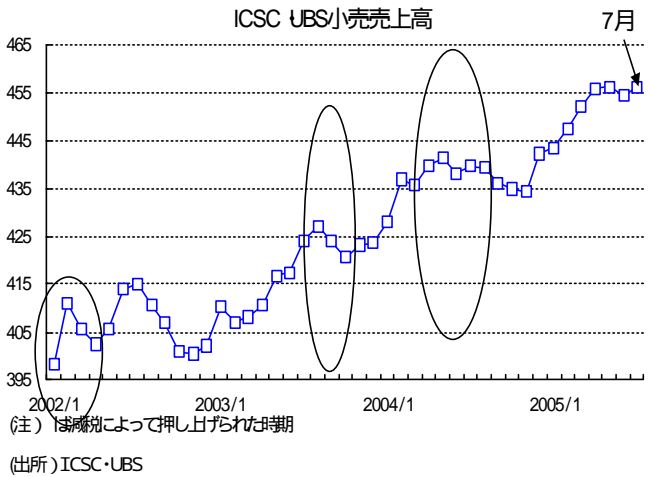
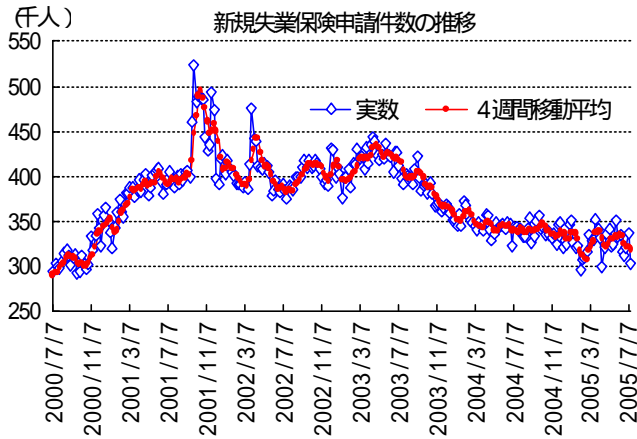
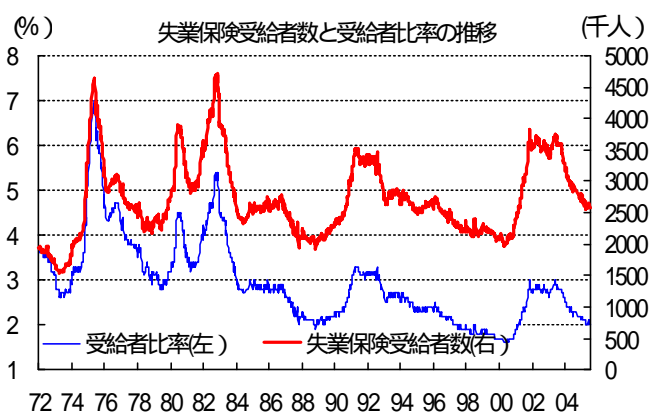
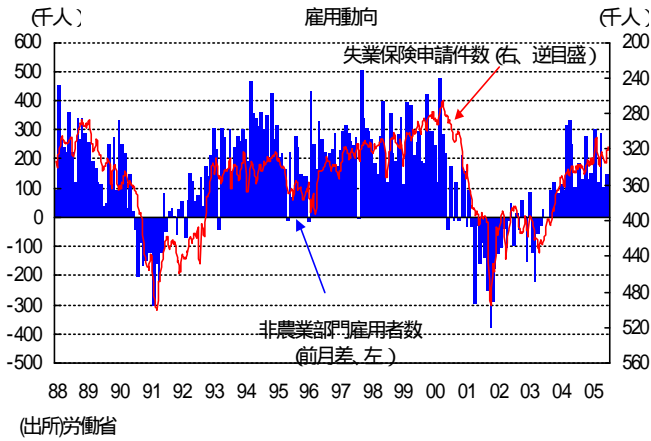
7月の雇用統計調査週である7月16日に終わった1週間の新規失業保険申請件数が、6月の雇用統計調査週の水準を下回っていること、6月の非農業部門雇用者数が実態よりも少なかったとみられることから、7月の非農業部門雇用者数は6月の前月差 + 146千人から同 + 210千人程度へ加速が予想される。

一方、7月9日に終わった週の失業保険受給者数は、257.7万人と依然として水準が高いものの緩やかな減少トレンドを辿っており、雇用環境の改善を示している。また、7月9日に終わった週の失業保険受給者比率が2.0%と6月の2.0%と変わらずとなっていることから7月の失業率は5.0% ~ 5.2%が見込まれる。

非農業部門雇用者数は7~9月期に前月差 + 200千人程度が見込まれる

先行きの雇用を取巻く環境をみると、労働生産性はプラス基調を維持しているものの余剰生産能力の縮小によって鈍化傾向を辿る可能性が高い。一方、雇用に先行する景気が2003年4~6月期から2005年4~6月期まで平均して潜在成長率を上回るペースで拡大している。そのような7~9月期のマンパワー社による新規雇用計画調査や経営者団体の景況調査における雇用計画など、各種雇用関連調査では採用拡大が示唆されている。景気拡大が続くもと期待成長率の高まりに伴い企業の採用意欲が強くなっている。また、規模別でも多くの雇用を抱える中小企業の雇用計画(「増やす」 - 「減らす」)が足下5月に15%と再び上昇し、中小企業での雇用の拡大を示唆している。以上のことから、7~9月期の非農業部門雇用者数は前月差 + 200千人程度が維持されると見込まれる。

雇用の拡大に伴い賃金も緩やかなペースで上昇することから、所得が拡大傾向を辿るとみられエネルギー価格が高止まりするもと個人消費は堅調さを維持すると予想される。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。